

すそ野広がる

発達障害啓もう

ブルーライトアップ、脳の多様性



「青」を身につけるAIGグループ
のアメリカン・ホームの社員たち

金融業界

毎年4月2日の世界自閉症啓発デーにあわせて政府は8日までを「発達障害啓発週間」と位置付け、自閉症をはじめとする発達障害への理解を促す。この取り組みが金融機関でも、じわじわと広がりを見せているようだ。

2007年の国連総会で決議されて以降、加盟国すべてに自閉症関連の啓発取り組みを実施することが要請されている。日本では啓発週間に国や自治体が主導する啓もうイベントなどを毎年開く。今年には新型コロナウイルスの影響で多

くのイベントが中止になったが、都内では2日に青い東京タワーが見られた。北海道では苫小牧信用金庫(苫小牧市)本店がブルーにライトアップされたほか、埼玉県川越市の取り組みにあわせて埼玉りそな銀行川越支店も青色ライトに照らされるなど自治体との協力が目を引く。青は癒やし、希望を表す色で観光名所や施設を青に染めて啓発に努める。アクサ生命は発達障害を脳の多様性として捉える「ニューロダイバーシティ」の概念を社内外に啓発する活動を開始した。有志が19年に、発達障害の家族がいる社員、自身が発達障害の認識を持ち生きづらさを感じている社員のための相談会、セミナーなどを始めたことを契機に今年から

会社の取り組みとして正式に推進している。以前から熱心に活動するのはAIGジャパングループ。13年から毎年、2日には青色の服やグッズを身につけて出社することを社員に呼びかける。同グループ広報によると「(今年は)各地でのイベントボランティアなどが中止になったものが、支援を続けようと青いものを身につけた写真を投稿する企画は例年通り実施した」。在宅社員が家族と、など今年ならではの写真投稿が多かったという。